

## 町特産のニンジン活用で地域産品ジュース



菊陽町、JA熊本果実連、JA菊池は2月4日、地域農業の活性化に向けた包括協定を結びました。町特産のニンジンを使ったジュースの開発を進め、3者が協力して農家の所得向上と地域農業活性化を目指します。

菊陽町吉本孝寿町長、JA熊本果実連の橋本明利会長、東哲哉代表理事組合長が協定書に署名。吉本町長は「特産のニンジンを使った商品が全国に広がり、食育や農業の担い手確保につながることを期待する」。果実連の橋本会長は「果実連の製造スキルを最大限に発揮し商品化する。地域農業

の活性化や地下水、農地の保全、生産者の経営安定に貢献したい」。東組合長は「3者が協力することで、ニンジンの新たな価値を生み出し、農家の所得向上につながればと思う」と話しました。

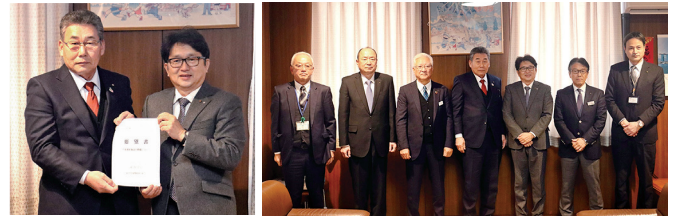
※菊陽町産ニンジンを使用したジュースは、4月下旬完成予定。菊陽町は学校給食等で製品を通じたPR活動を行い、特産品の知名度向上を目指します。

※人参選果場は、日量の出荷数量を増やすため新設中で10月に竣工予定。取扱量を年間約4000トン増やし、規格外品をジュースなどの加工用原料としてJA熊本果実連へ供給します。

## 菊陽町へ表敬訪問

東哲哉組合長らは2月4日、菊陽町の吉本町長を訪問し、菊池地域の農業振興、農業を取り巻く環境、人参選果施設の整備に向けた課題や要望などについて意見を交わしました。

東組合長は「菊池地域は県内トップのニンジンの産地。新設の人参選果施設が地域の受け皿となることで、ニンジン産地としても生産の維持、拡大を目指していきたい」と話しました。



## イチゴ部会

北営農センター 矢野博之

## シンガポールからの旅行客がイチゴハウスを見学

海外旅行客の農業体験ツアー客が1月31日、「糖蜜使用こだわりいちご」の栽培見学にて七城町を訪れました。寿ファーム代表の前田寿英さんが、栽培管理やおいしさへのこだわりなどを話し「菊池いちご」をアピールしました。

見学に訪れたのは一般社団法人九州観光機構が企画した「九州の食を活用した高付加価値ツアー」にシンガポールから参加した12人。参加者は興味津々で、イチゴ栽培についての疑問を投げ掛け、前田さんの話を熱心に聞いていました。九州管内を回り、食に関する体験をするツアーで、熊本ではイチゴのほか、八代の晩白柚など4カ所の農作物現場で見学や収穫体験をしたようです。米どころ菊池もアピールしようと農産担当職員による米の話もしました。試食会では、七城のこめのおにぎりとお玉イチゴを食べて「おいしい」と感嘆の声をあげられ、驚きや喜びの笑顔を見せながら次の現場へ移動されました。

海外の旅行客対応は初めてでしたが、生産現場を見て味わってもらい、注文も受けました。

部会では海外への輸出も行っていますが、シンガポールへは送っていないので今後検討したいと思います。



## 大阪で試食販売促進会 「菊池いちご」をアピール

大阪の阪神デパートで2月11～12日、部会女性部員が出向き「菊池いちご」を食べてもらい、販売。大変好評をいただき早くに完売することができました。

